

NSG

GROUP

NSG グループ

2022年3月期 第1四半期決算報告

(2021年4月1日～ 2021年6月30日)

日本板硝子株式会社
執行役常務 CFO 楠瀬 玲子

2021年8月5日

目次

1. 2022年3月期 第1四半期 決算概要
2. 2022年3月期 業績予想について
3. リバイバル計画24（RP24）に基づく構造改革施策の進捗
4. まとめ

連結損益計算書



COVID-19の影響を大きく受けた前年同期から大幅に改善し、Q1業績は当初想定を上回る。
構造改革施策の効果も下支えし、営業利益、純利益とも黒字に転換

(億円)	4-6月期		増減
	2021年 3月期	2022年 3月期	
売上高	919	1,477	558
営業利益 (△損失)	△ 6	72	78
営業利益率	-	4.9%	
個別開示項目(COVID-19関連)	△ 115	0	115
COVID-19関連個別開示項目後 営業利益 (△損失)	△ 121	72	193
個別開示項目(その他)	0	△ 2	△ 2
個別開示項目後営業利益 (△損失)	△ 121	70	191
金融費用(純額)	△ 24	△ 30	△ 6
持分法による投資損益	△ 4	15	19
税引前利益 (△損失)	△ 149	55	204
当期利益 (△損失)	△ 165	29	194
純利益 (△損失) *	△ 164	25	189
EBITDA	61	165	104

4月、5月を中心に大幅に売上回復、特に自動車用ガラス事業で顕著。構造改革施策の効果もあり営業利益も改善

【グループ売上(月別)】 【4-6月期売上(事業別)】

	前年比		前年比
4月	+115%	建築用	+45%
5月	+70%	自動車用	+80%
6月	+25%	高機能	+40%
累計	+60%	グループ計	+60%

営業利益の増加、COVID個別開示費用の減少、ブラジル持分法適用会社好調継続により大幅改善

黒字転換

2021年8月5日 | 2022年3月期第1四半期決算報告

*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失) 4

4ページは連結損益計算書になります。

ご覧の表の左側が前年度第1四半期の業績、その右側に当第1四半期の業績になります。

2022年3月期第1四半期における売上高は、1,477億円と、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた前年同期から558億円の増収となり、また営業利益は72億円と黒字転換致しました。

月別では4月および5月、事業別では自動車用ガラス事業で顕著に回復しました。

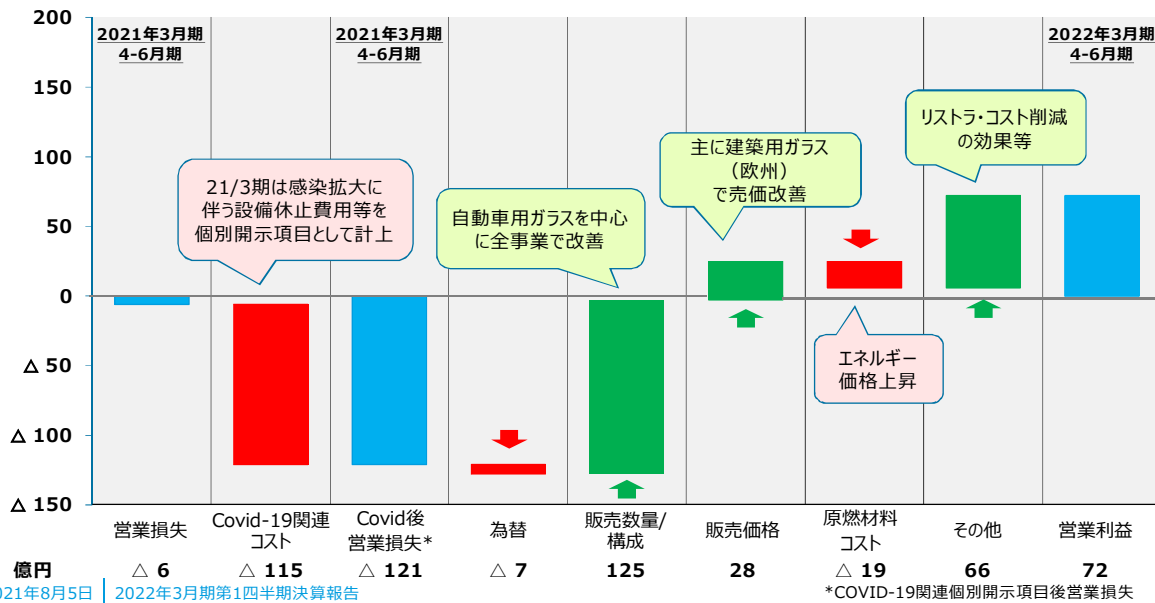
また、営業利益より下の項目を見ていただくと、前年同期に115億円計上した新型コロナウイルス関連個別開示項目費用は、当第1四半期には計上がありませんでした。

(なお、今年度に新型コロナウイルス関連の継続的コストが発生する場合は、営業損益項目として計上されます。)

また、ブラジルのセブラセ社を中心とした持分法による投資損益も改善しましたので、純損益も25億円の黒字へと大幅に改善しました。

営業利益差異分析 (無形資産償却後 4-6月期累計)

需要の回復に加え、コストダウン効果により大幅に改善



5ページは、営業利益について、前年同期との差異を説明しています。

前年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う設備休止費用等115億円を個別開示項目に計上したため、差異分析では、前年同期のCOVID-19関連個別開示項目後営業損失121億円との比較を示しています。

「為替」は、7億円マイナスですが、円安のため、前年度の営業損失を当年度の為替レートで計算すると、営業損失が増加することによるものです。【※参考：為替レート (p.23)】

「販売数量/構成」は125億円のプラスで、自動車ガラス事業を中心に全事業で新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けた前年度から大きく改善しました。

「販売価格」は28億円のプラスで、主に建築用ガラス事業の欧州において、需給引締まりに伴う価格改善によるものです。

「原燃材料コスト」は19億円のマイナスで、天然ガスを中心としたエネルギー価格の上昇の影響を受けました。

「その他」は66億円のプラスとなり、リバイバル計画24 (RP24) に基づくコスト構造改革の成果が反映されています。

連結貸借対照表



純利益の計上等により自己資本比率が改善

(億円)	2021年 3月末	2021年 6月末	増減
資産合計	8,250	8,313	63
非流動資産	5,750	5,849	99
流動資産	2,500	2,464	△ 36
負債合計	7,452	7,386	△ 66
流動負債	2,878	2,757	△ 121
非流動負債	4,574	4,629	55
資本合計	798	927	129
親会社の所有者に帰属する持分	629	749	120
自己資本比率 (%)	7.6%	9.0%	+1.4pt
ネット借入	4,117	4,222	105

主に買掛債務が減少

純利益の計上、エネルギーヘッジの評価益および為替影響により改善

フリー・キャッシュ・フローのマイナスによる

6ページは連結貸借対照表になります。

当第1四半期は概して大きな変動はありませんでしたが、前年度末からの増減が比較的大きなものについて、簡単にご説明します。

流動負債の減少121億円は、買掛債務の減少によるものです。

親会社の所有者に帰属する持分は、主に当第1四半期の純利益の計上、エネルギーヘッジのためのデリバティブの評価益、および為替影響により、120億円増加しています。

この結果、自己資本比率は、9.0%と、前期末比で1.4ポイント上昇しました。

ネット借入は、フリー・キャッシュ・フローのマイナスを受けて105億円増加しました。

連結キャッシュ・フロー計算書

利益改善、キャッシュ節減活動により前年同期から大きく回復。
通期でフリー・キャッシュ・フローのプラスを目指す

(億円)	4-6月期		
	2021年 3月期	2022年 3月期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 306	△ 8	298
(うち、運転資本の増減)	△ 221	△ 120	101
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 161	△ 88	73
(うち、有形固定資産の取得)	△ 132	△ 83	49
フリー・キャッシュ・フロー	△ 467	△ 96	371
財務活動によるキャッシュ・フロー	399	△ 32	△ 431
現金及び現金同等物の増減	△ 68	△ 128	△ 60
現金及び現金同等物 期末残高	337	416	79

利益改善やキャッシュ管理の徹底により、前年同期から大幅に改善

前年同期は戦略投資あり

前年同期から大幅改善

7ページは連結キャッシュ・フロー計算書になります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、運転資本の変動によりマイナス8億円と若干のマイナスながら、利益改善やキャッシュ管理の徹底により、前年同期から298億円と大幅に改善しました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、北米における太陽光パネル用ガラス向けフロートライン新設等の戦略投資に伴う有形固定資産取得があった前年同期から73億円改善しました。

この結果、フリー・キャッシュ・フローは、マイナスながら前年同期から371億円と大幅に改善、手元資金も当座貸越枠を含めて416億円と十分な額を確保しています。

セグメント情報



(億円)	2020年3月期 4-6月期			2021年3月期 4-6月期				2022年3月期 4-6月期			前年同期比	
	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	COVID後 営業利益*	売上高	%	営業利益	売上高	営業利益
建築用ガラス事業	599	41%	57	449	49%	27	△ 22	645	44%	61	196	34
欧州	232	16%		160	17%			278	19%		118	
アジア	224	15%		192	21%			193	13%		1	
米州	143	10%		97	11%			174	12%		77	
自動車用ガラス事業	768	53%	40	387	42%	△ 29	△ 93	709	48%	13	322	42
欧州	335	23%		166	18%			312	21%		146	
アジア	174	12%		99	11%			151	10%		52	
米州	259	18%		122	13%			246	17%		124	
高機能ガラス事業	101	6%	18	81	9%	14	12	114	8%	28	33	14
欧州	17	1%		13	2%			21	2%		8	
アジア	80	5%		65	7%			90	6%		25	
米州	4	0%		3	0%			3	0%		0	
その他	3	0%	△ 27	2	0%	△ 18	△ 18	9	0%	△ 30	7	△ 12
合計	1,471	100%	88	919	100%	△ 6	△ 121	1,477	100%	72	558	78

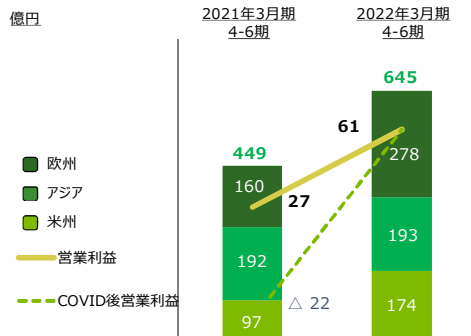
2021年8月5日 | 2022年3月期第1四半期決算報告

*COVID-19関連個別開示項目後営業利益 8

8ページでは、過去3年度の第1四半期の事業セグメント毎の売上高および営業利益、ならびに昨年度のCOVID-19関連個別開示項目後営業利益を示しています。各事業の詳細については次のスライドでご説明します。

建築用ガラス事業 (増収・増益)

欧州・米州で大幅に売上回復。
エネルギーコスト上昇の影響を受けるも営業利益は大きく改善し、2020/3期実績を上回る



	4-6月期			
	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	増減
売上高	599	449	645	196
● 欧州	232	160	278	118
● アジア	224	192	193	1
● 米州	143	97	174	77
営業利益	57	27	61	34
COVID後営業利益*	57	△22	61	83

2021年8月5日 | 2022年3月期第1四半期決算報告

欧州 (増収・増益)

- 好調な需要により販売数量および価格が上昇
- 原燃材料・輸送コスト上昇の影響を、安定した操業とコスト削減努力で軽減

アジア (横ばい・増益)

- 日本国内の建築需要は低調に推移するも、日本以外での業績は回復
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調

米州 (増収・増益)

- 北米は、フロート窯の定期修繕と輸送コンテナ不足により若干、出荷に制約があるも、販売数量は増加
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調
- 南米は好調な需要により、販売数量が増加

*COVID-19関連個別開示項目後営業利益 9

9ページから11ページは各事業の業績について示しています。なお、今年度については、状況がより分かりやすいように前年同期のCOVID-19関連個別開示項目後営業利益に対する比較も示しています。

建築用ガラス事業は、欧州・米州で新型コロナウイルスの影響を受けた前年同期から大幅に売上が回復しました。エネルギーコスト上昇の影響を受けましたが、営業利益も大きく改善し、売上高645億円、営業利益61億円となりました。これは新型コロナウイルスの影響を受ける前の2020年3月期第1四半期を上回っています。

欧州は、増収増益となりました。

供給能力を上回る好調な需要により販売数量・価格が改善しました。天然ガスを中心とした原燃材料・輸送コスト上昇の影響を、安定した操業とRP24に基づくコスト構造改革施策で軽減しています。

アジアは、売上高は横ばいながら、増益となりました。

日本国内の建築需要は低調に推移しましたが、日本以外の地域での業績は回復しました。太陽電池パネル用ガラスの需要も堅調に推移しています。

米州は、増収増益となりました。

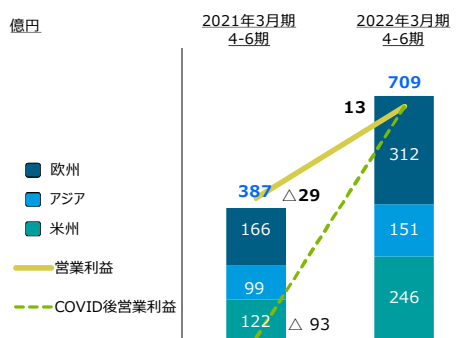
北米は、フロート窯の定期修繕と輸送コンテナの不足により、若干出荷が制約されましたが、販売数量は増加、太陽電池パネル用ガラスの売上は引続き好調です。

南米は、好調な需要により、販売数量が増加しました。

自動車用ガラス事業 (増収・増益)



部品不足による自動車生産制約の影響はあるも、COVID-19影響を大きく受けた前年同期から大幅に改善



	4-6月期			
	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	増減
売上高	768	387	709	322
● 欧州	335	166	312	146
● アジア	174	99	151	52
● 米州	259	122	246	124
営業利益	40	△ 29	13	42
COVID後営業利益*	40	△ 93	13	106

2021年8月5日 | 2022年3月期第1四半期決算報告

欧州 (増収・増益)
アジア (増収・増益)
米州 (増収・増益)

- 半導体等自動車部品不足による自動車生産の制約や、マレーシアにおけるロックダウンの影響を受けるも、売上は全地域で大幅に回復
- COVID-19の影響により前年4-5月に広範なロックダウンが実行された欧州・北米で特に回復が大きい
- 原燃材料コスト上昇の影響を受けるも、生産・販売数量の回復により営業利益は大幅に改善

*COVID-19関連個別開示項目後営業利益 10

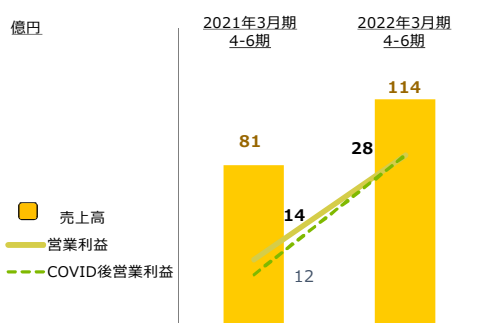
10ページは、自動車用ガラス事業です。

自動車用ガラス事業は、部品不足による自動車生産制約の影響はありましたが、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた前年同期から大幅に改善しました。欧州、アジア、および米州全ての地域で増収増益となり、売上高709億円、営業利益13億円となりました。

特に新型コロナウイルスの影響により前年4-5月に広範なロックダウンが実行された欧州・北米で回復が大きくなっています。また、原燃材料コスト上昇の影響を受けましたが、生産・販売数量の回復により営業利益は大幅に改善しました。

高機能ガラス事業 (増収・増益)

COVID-19の影響があった前年同期から事業環境は好転し、2020/3期を上回る増収増益を達成



	4-6月期			
	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	増減
売上高	101	81	114	33
営業利益	18	14	28	14
COVID後営業利益*	18	12	28	16

高機能ガラス事業

- ファインガラスは、継続的なコスト削減による事業基盤の強化や売上構成の改善により業績は改善
- プリンター用レンズは、在宅勤務、オンライン授業向けにプリンター需要が増加
- グラスコードは中国を中心に需要が堅調。メタシャイン® は自動車向け・化粧品向け市場で需要回復の兆し
- バッテリーセパレーターの業績は安定的に推移
(バッテリーセパレーター事業の譲渡は9月に完了の見込み)

2021年8月5日 | 2022年3月期第1四半期決算報告

*COVID-19関連個別開示項目後営業利益 11

11ページは、高機能ガラス事業です。

高機能ガラス事業も、新型コロナウイルスの影響があった前年同期から事業環境は好転し、増収増益となりました。新型コロナウイルスの影響を受ける前の2020年3月期第1四半期を上回っています。

ファインガラスは、継続的なコスト削減による事業基盤の強化や売上構成の改善により業績は改善しました。

プリンター用レンズは、在宅勤務、オンライン授業向けにプリンター需要が引続き増加しています。

グラスコードは中国を中心に需要が堅調、メタシャイン® は自動車向け・化粧品向け市場で需要回復の兆しを見せています。

バッテリーセパレーターの業績は安定的に推移しています。
事業譲渡は9月に完了の見込みです。

2022年3月期修正業績予想の前提

グループ	当初想定を上回るQ1実績を踏まえ、上期・通期業績予想を上方修正 <ul style="list-style-type: none"> エネルギー価格の上昇等により投入コスト増の影響を大きく受ける見通し。不透明な事業環境を踏まえ、下期業績予想は据え置き。今後の事業環境を注視 個別開示項目にはバッテリーセパレーター事業の譲渡益（9月予定）を含む 構造改革施策の効果もあり、全事業で増収増益の想定は変わらず*
建築用ガラス	安定した需要回復が継続するが、欧州を中心にエネルギー価格上昇の影響を受ける <ul style="list-style-type: none"> 欧州：需給改善を踏まえ価格改善を想定するが、天然ガス価格の急騰が懸念材料 アジア：東南アジアでCOVID-19感染拡大の影響を想定 北米：経済活動再開に伴う域内市場は引き続き回復基調 南米：タイトな需給環境が継続 太陽電池パネル用ガラス：数量増加を見込む
自動車用ガラス	自動車需要は概ね堅調だが、半導体等部品不足の影響を受ける想定 <ul style="list-style-type: none"> 全地域で堅調な自動車需要と在庫逼迫により、自動車生産増を想定するが、半導体等部品不足解消のタイミングに不透明感あり。事業環境を注視
高機能ガラス	全体として改善基調* <ul style="list-style-type: none"> 自動車関連製品は自動車生産動向に連動した回復を想定 プリンター用レンズは当面在宅勤務需要増加の恩恵が続く

2021年8月5日 | 2022年3月期第1四半期決算報告

*譲渡予定事業を除く

12

スライド12は2022年3月期業績予想の前提を示しています。

当初想定を上回るQ1実績を踏まえ、上期および通期業績予想を上方修正致しました。ただし、エネルギー価格の上昇等により原燃材料コスト上昇の影響を今後とも大きく受ける見通しであり、不透明な事業環境を踏まえ、下期業績予想は据え置きとしています。具体的数値は13ページに示しています。

個別開示項目には、9月に計上予定のバッテリーセパレーター事業の譲渡益を含みます。

値上げ努力やリバイバル計画24（RP24）に基づくコスト構造改革により、原燃材料コスト上昇の影響を相殺し、全事業での増収増益の計画に変更はありません。

事業別に見ますと、建築用ガラス事業では、概ね安定した需要の継続を想定していますが、欧州を中心にエネルギー価格上昇の影響を受ける想定です。欧州では、需給改善を踏まえ更なる価格改善を想定していますが、急騰している天然ガスを中心としたエネルギー価格上昇の影響を受ける見込みです。北米では、経済活動再開に伴う域内市場は引き続き回復基調であり、南米でもタイトな需給環境が継続する想定です。太陽電池パネル用ガラスは、引続き好調な需要を反映した数量増加を見込んでいます。

自動車用ガラス事業では、全地域で堅調な自動車需要があり、また自動車在庫が逼迫しているため、今後自動車生産は増加していくものと想定しています。しかしながら、半導体などの部品不足がいつ解消するかについては不透明感があり、事業環境を注視する必要がありますと考えています。

高機能ガラス事業も、全体として改善基調が続くものとみえています。

2022年3月期通期業績予想



当初想定を上回るQ1実績を踏まえ、上期・通期業績予想を上方修正（下期は据え置き）

(億円)	2022年3月期 上期予想 (前回)	2022年3月期 上期予想 (今回)	2022年3月期 下期予想 (変更なし)	2022年3月期 通期予想 (前回)	2022年3月期 通期予想 (今回)	2021年3月期 通期実績
売上高	2,500	2,800	2,800	5,300	5,600	4,992
営業利益	100	120	120	220	240	131
COVID関連個別開示項目後 営業利益	100	120	120	220	240	△ 30
個別開示項目（その他） 個別開示項目後 営業利益	50	50	0	50	50	△ 53
150	170	120	270	290	△ 83	
金融費用（純額）	△ 70	△ 60	△ 70	△ 140	△ 130	△ 110
持分法による投資損益	10	20	10	20	30	21
税引前利益	90	130	60	150	190	△ 172
当期利益	80	90	30	110	120	△ 163
純利益*	70	80	20	90	100	△ 169

2021年8月5日 | 2022年3月期第1四半期決算報告

*親会社の所有者に帰属する当期利益

13

2022年3月期の業績予想になります。

表の左側から、2022年3月期の前回上期予想、今回上期予想、下期予想、前回通期予想、今回通期予想、前年2021年3月期通期実績と並んでおります。



今回、当初想定を上回るQ1実績を踏まえ、上期および通期業績予想を上方修正致しました。

上期の売上高は、前回比300億円増加し、2,800億円、営業利益は20億円増加し、120億円、純利益は10億円増加し、80億円としています。

なお、不透明な事業環境を踏まえ、下期業績予想は据え置きとしており、通期の売上高は5,600億円、営業利益は240億円、純利益は100億円となっています。

リバイバル計画24（RP24）構造改革施策の進捗

RP24に基づき構造改革主要施策を執行中

3つの改革		
<p>コスト構造改革</p> <ul style="list-style-type: none"> 人員削減：22/3期に約500人強の削減に向け進捗（21/3期と合わせて2,000人強の削減。退職コストは21/3期に引当済） コスト削減：「改革・革新」活動を通じた製造改革、拠点の統廃合・働き方改革等による間接費低減の取り組みを執行中 	<p>事業構造改革</p> <ul style="list-style-type: none"> 米国 太陽電池パネル用ガラス製造窯の本格稼働 アルゼンチンで新フロート窯の建設再開  <p>アルゼンチンの新フロートライン（建設中）</p>	<p>企業風土改革</p> <ul style="list-style-type: none"> 「顧客重視」、「迅速な意思決定とアクション」、「困難な課題の克服」を目指し、「Shape to Shine」活動をグローバルに展開 
<p>2つの重点施策</p>	<p>財務基盤の回復</p> <ul style="list-style-type: none"> 22/3期 Q1で純損益が黒字転換。前年同期から約190億円の大改善 2021年6月末現預金残高447億円、未使用融資枠692億円 	
	<p>高収益事業へのポートフォリオ転換</p> <ul style="list-style-type: none"> バッテリーセパレーター事業譲渡：9月譲渡（予定）に向けて順調に進捗 	

RP24 説明資料：https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir-presentations/mtprp24presentation2021_j01.pdf

2021年8月5日 | 2022年3月期第1四半期決算報告

14

今期を初年度とするリバイバル計画24（RP24）に基づいて実行中の構造改革について、主な進捗についてご説明致します。

RP24ではこの表に示している「3つの改革」と「2つの重点施策」にコミットしています。

まず「3つの改革」のうち、「コスト構造改革」については、人員削減や製造改革など多くのコスト削減や生産性向上施策を策定、実施中です。

「事業構造改革」については、米国における太陽電池パネル用ガラス製造窯が本格的に稼働し、アルゼンチンにおける新フロート窯の建設を再開する等、高付加価値事業の拡大・新規成長分野の育成を進めています。

「企業風土改革」については、「顧客重視」、「迅速な意思決定とアクション」、「困難な課題の克服」を目指し、持続的な成長が果たせる強い事業体質を構築するための「Shape to Shine」活動をグローバルに展開、変革に挑戦し、やり抜き結果を出す組織への改革を進めています。

続いて「2つの重点施策」についてですが、純損益が黒字転換し「財務基盤の回復」に向けても進捗しています。

また「高収益事業へのポートフォリオ転換」については、バッテリーセパレーター事業譲渡が、9月の譲渡予定に向けて進んでいます。

まとめ

1. 2022年3月期 第1四半期決算

- COVID-19の影響を大きく受けた前年同期から、自動車用ガラスを中心に大きく売上回復
- 構造改革施策の効果もあり、営業利益・純利益とも黒字に転換。Q1業績は、想定を上回る
- 好調な事業業績等により自己資本は改善基調。
あわせて徹底したキャッシュ管理により通期フリー・キャッシュ・フローの黒字化を目指す

2. 2022年3月期 上期・通期業績予想修正

- 当初想定を上回るQ1実績を踏まえ、上期・通期業績予想を上方修正
- エネルギー価格の上昇等により投入コスト増の影響を大きく受ける見通し
- 不透明な事業環境を踏まえ、下期業績予想は据え置き。今後の事業環境を注視
- 構造改革施策の効果もあり、全事業で増収増益の想定は変わらず

3. RP24に基づく構造改革施策の進捗

- コスト構造改革：コスト改善諸施策を策定し、最優先課題として取り組み
- 事業構造改革：太陽電池パネル用ガラス製造窯の本格稼働・アルゼンチンにおける新フロート建設再開
- 事業ポートフォリオ変革：バッテリーセパレーター事業譲渡は9月に完了の見込み

スライド15ページは今回の決算報告のまとめになります。

2022年3月期第1四半期は、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた前年同期から、自動車用ガラスを中心に大きく売上回復し、RP24に基づく構造改革施策もあり営業利益・純利益とも黒字に転換しました。

当初想定を上回るQ1実績を踏まえ、上期・通期業績予想を上方修正しています。

今後ともRP24に基づく事業構造改革施策を推進し、利益・キャッシュ創出に努め、財務基盤の回復を達成する方針です。

ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境及び競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市場環境、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

日本板硝子株式会社

補足資料



- 連結損益計算書（四半期別）
- 事業部門別・地域別業績 四半期別推移
- 四半期別セグメント情報
- 地域別業績
- 個別開示項目
- 為替レート・為替感応度
- 減価償却費・資本的支出・研究開発費

連結損益計算書 四半期別推移



(億円)	2020年 3月期				2021年 3月期				2022年 3月期
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期
売上高	1,471	1,415	1,372	1,304	919	1,296	1,359	1,418	1,477
営業利益(△損失)	88	61	31	32	△ 6	38	48	51	72
営業利益率	6.0%	4.3%	2.3%	2.5%	—	2.9%	3.5%	3.6%	4.9%
個別開示項目(COVID-19関連)	—	—	—	△22	△ 115	△ 13	△ 12	△ 21	—
COVID-19関連個別開示項目後 営業利益 (△損失)	88	61	31	10	△ 121	25	36	30	72
個別開示項目(その他)	△6	△16	△22	△174	0	△ 8	10	△ 55	△ 2
個別開示項目後営業利益 (△損失)	82	45	9	△164	△ 121	17	46	△ 25	70
金融費用(純額)	△35	△28	△32	△23	△ 24	△ 30	△ 21	△ 35	△ 30
持分法による投資損益	5	3	4	△1	△ 4	2	10	13	15
税引前利益 (△損失)	52	20	△19	△188	△ 149	△ 11	35	△ 47	55
当期利益 (△損失)	31	△7	△5	△194	△ 165	△ 7	37	△ 28	29
純利益 (△損失) *	29	△10	△7	△201	△ 164	△ 9	34	△ 30	25
EBITDA	175	142	115	118	61	127	135	145	165

2021年8月5日 | 2022年3月期第1四半期決算報告

*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

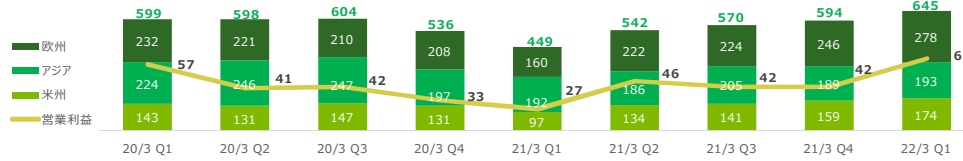
18

事業部門別・地域別売上高及び営業利益 四半期別推移



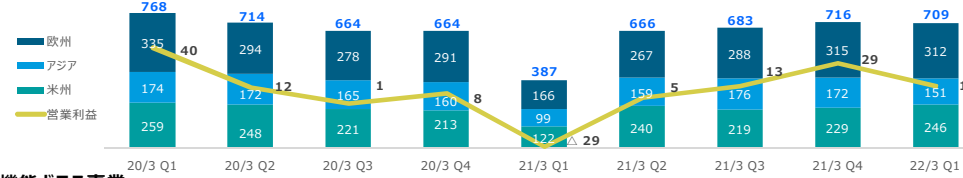
建築用ガラス事業

単位：億円



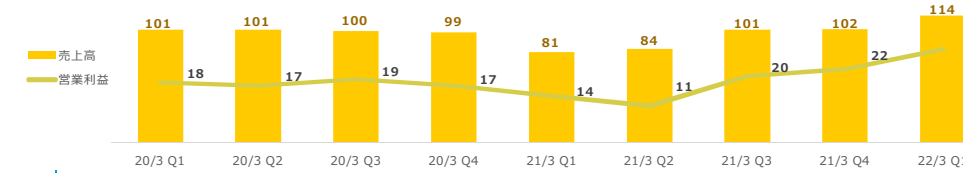
自動車用ガラス事業

単位：億円



高機能ガラス事業

単位：億円



2021年8月5日 | 2022年3月期第1四半期決算報告

セグメント情報



(億円)	2020年 3月期					2021年 3月期					2022年 3月期
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期
売上高: 建築用ガラス	599	598	604	536	2,337	449	542	570	594	2,155	645
欧州	232	221	210	208	871	160	222	224	246	852	278
アジア	224	246	247	197	914	192	186	205	189	772	193
米州	143	131	147	131	552	97	134	141	159	531	174
営業利益	57	41	42	33	173	27	46	42	42	157	61
COVID後営業利益*	-	-	-	27	167	△ 22	41	38	34	91	-
売上高: 自動車用ガラス	768	714	664	664	2,810	387	666	683	716	2,452	709
欧州	335	294	278	291	1,198	166	267	288	315	1,036	312
アジア	174	172	165	160	671	99	159	176	172	606	151
米州	259	248	221	213	941	122	240	219	229	810	246
営業利益	40	12	1	8	61	△ 29	5	13	29	18	13
COVID後営業利益*	-	-	-	△ 6	47	△ 93	△ 6	4	17	△ 78	-
売上高: 高性能ガラス	101	101	100	99	401	81	84	101	102	368	114
欧州	17	18	16	20	71	13	14	19	18	64	21
アジア	80	79	81	77	317	65	68	79	81	293	90
米州	4	4	3	2	13	3	2	3	3	11	3
営業利益	18	17	19	17	71	14	11	20	22	67	28
COVID後営業利益*	-	-	-	16	70	12	10	21	22	65	-
売上高: その他	3	2	4	5	14	2	4	5	6	17	9
営業利益	△ 27	△ 9	△ 31	△ 26	△ 93	△ 18	△ 24	△ 27	△ 42	△ 111	△ 30
COVID後営業利益*	-	-	-	△ 27	△ 94	△ 18	△ 20	△ 27	△ 43	△ 108	-
売上高: 合計	1,471	1,415	1,372	1,304	5,562	919	1,296	1,359	1,418	4,992	1,477
営業利益	88	61	31	32	212	△ 6	38	48	51	131	72
COVID後営業利益*	-	-	-	10	190	△ 121	25	36	30	△ 30	-

2021年8月5日 | 2022年3月期第1四半期決算報告

*COVID-19関連個別開示項目後営業利益

20

地域別売上高及び営業利益

(億円)	2021年3月期 4-6期			2022年3月期 4-6期			増減	
	売上高	%	営業利益 (△損失)	売上高	%	営業利益 (△損失)	売上高	営業利益 (△損失)
欧州	339	37%	△ 5	611	41%	24	272	29
アジア	356	39%	15	434	29%	52	78	37
米州	222	24%	2	423	29%	26	201	24
その他 *	2	0%	△ 18	9	1%	△ 30	7	△ 12
合計	919	100%	△ 6	1,477	100%	72	558	78

* 「その他」セグメントの売上高、営業利益は地域別に区分していない。

個別開示項目

(億円)	2021年3月期 4-6月期	2022年3月期 4-6月期
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)関連*	△ 115	-
政府支援による収益	8	-
設備休止等に係る費用	△ 123	-
リストラクチャリング費用	△ 4	△ 1
子会社及びジョイントベンチャーの売却による利益	6	-
その他	△ 2	△ 1
個別開示項目 純額	△ 115	△ 2

* 2021/3期は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のまん延により影響を受ける直接費と回収不能な事業運営コスト、及びそれに関連して政府により支給される補助金を個別開示項目として計上。これらにはCOVID-19により生産活動に従事できない従業員への給与支払や休止設備の維持費用、施設の安全な作業環境整備のために生じた清掃費用などの直接費用を含む。

為替レート



期中平均レート

	2020年 3月期				2021年 3月期				2022年 3月期
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
英ポンド	141	137	138	138	133	135	136	139	153
ユーロ	124	121	121	121	118	121	123	124	132
米ドル	109	109	109	109	107	106	106	106	109
ブラジル・リアル	28.0	27.6	27.2	26.4	19.9	19.8	19.7	19.7	20.6
アルゼンチン・ペソ	4.70	超インフレ会計の適用により、期末レートのみ使用							

期末レート

	2020年 3月期				2021年 3月期				2022年 3月期
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
英ポンド	137	133	144	133	132	135	141	152	153
ユーロ	123	118	122	119	121	124	127	130	132
米ドル	108	108	109	108	107	105	103	111	111
ブラジル・リアル	28.3	26.0	27.1	20.8	19.9	18.7	19.8	19.1	22.3
アルゼンチン・ペソ	2.53	1.88	1.82	1.68	1.53	1.38	1.22	1.20	1.16

為替感応度

他の前提に変動がない条件で、
為替レートが他の通貨に対して
1%円高になった場合の影響額

	2021年 3月期
資本	31.0億円の減少
当期損失	1.0億円の改善

減価償却費・資本的支出・研究開発費

(億円)	2021年3月期 4-6月期	2022年3月期 4-6月期	2022年3月期 見直し
減価償却費	86	93	350
資本的支出	84	42	290
通常投資	22	38	
戦略投資、他	62	4	
研究開発費	21	20	90
建築用ガラス事業	5	6	
自動車用ガラス事業	5	6	
高機能ガラス事業	2	2	
その他	9	6	

NSG

GROUP